

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 1681 号

Expression of adipophilin in gastric epithelial neoplasia is associated with intestinal differentiation and discriminates between adenoma and adenocarcinoma

(胃上皮性腫瘍におけるアディポフィリンの発現は腸型分化に関連し、腺腫と癌を識別する)

具嶋 亮介 (ぐしま りょうすけ)

博士 (医学)

論文内容の要旨

脂肪滴の蓄積・分解の制御に関与する脂肪滴関連蛋白のアディポフィリンは様々な腫瘍に発現すると言われている。今回の研究の目的は胃上皮性腫瘍におけるアディポフィリンの発現の頻度や発現様式を評価し、さらに臨床病理学的特徴や粘液形質との関連を明らかにすることとした。対象は2008年から2013年までに内視鏡治療された胃上皮性腫瘍159例をランダムに抽出した。さらに159例をウィーン分類に従って低異型度腺腫(カテゴリー3)52例、非浸潤性腫瘍(カテゴリー4)65例、浸潤性腫瘍(カテゴリー5)42例に分類した。免疫染色に関してはアディポフィリン、粘液形質の評価としてMUC2, MUC5AC, MUC6, CD10, Villinをおこなった。アディポフィリンの発現はカテゴリー3で79% (41/52)、カテゴリー4で65%(42/65)、カテゴリー5で55%(23/42)であった。アディポフィリンの発現と粘液形質との関連に関しては、全ての症例で腸型形質(完全腸型もしくは不完全腸型)を示していた。発現様式に関してはカテゴリー3では表層のみの発現が多いのに対して、カテゴリー3からカテゴリー5へと段階的に腺窩の発現が増える傾向にあった。結論としては、アディポフィリンの発現は腸型形質の腫瘍と密接な関係があることが示された。アディポフィリンの発現様式は腺腫と癌の鑑別の有用なマーカーとなる可能性が示唆された。